

ブリスベン 2019 INAS グローバルゲームズ競技大会

【実施報告書】



2019年12月

一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会

ANISA
All Nippon ID Sport Association

はじめに

今回で、5回目を数える同大会は、46の国と地域から1,000人を超えるアスリートが、2019年10月12日から10月19日の期間にオーストラリア（ブリスバニ）で開催され、10競技が正式競技として採用された（当初は9競技の予定が、大会直前にクリケットが正式競技となった）。

前回大会は高地での開催という事もあり、事前に選手・スタッフの体調管理に関する不安要素を丁寧に払拭し本番に備えたが、直前に開催地周辺で大規模な噴火などがあり、予定していた会場の変更等とにかく大変な状況下で開催を余儀なくされた。更に、非公式ではあるが財政的な混乱も重なり、知的障がい者のパラリンピックへの復帰を目指すINASにとって2度と同じ状況にならない様、今大会（大会組織委員会）は、IPCに対して運営面などで納得のいく大会にする必要があった。

そこでINASの現副会長であり今回の組織委員会責任者でもあるロビン氏は、積極的な広報活動のみならず、様々な関係者から多くの協力を取り付け献身的にその準備にあっていたのが大変印象的だった。

また、今大会からは、「ダウン症がドリ（Ⅱ2）」と「自閉症がドリ（Ⅱ3）」の2つの新しいがドリも実施するなどチャレンジ精神に溢れ、様々な面で非常に価値のある大会であった。また、日本選手団としては本部役員が5月に事前視察を行い、派遣競技団体への情報提供や組織委員会との密接な連携など、安心・安全に派遣することは当然の事ながら、前回大会を上回る成績を残せるよう関係各所と連携しながら準備にあたった。

ブリスバニINASグローバルがドリ競技大会

日本選手団 団長

一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会

会長 斎藤 利之

<ブリスベン2019INASグローバルゲームズ競技大会概要>

1. 派遣期間

2019年10月8及び9日～21日（2つの班に分かれ派遣）

- 開会式：10月12日
- 閉会式：10月19日
- 大会期間：10月12日～19日

2. 開催地

オーストラリア（ブリスベン）

3. 運営主体

- 国際知的障がい者スポーツ連盟
- 大会組織員会

4. 参加国と選手数

46の国と地域から1,000名のアスリート

5. 実施競技

10競技（陸上競技、バスケットボール、フットサル、水泳、卓球、自転車、テニス、クリケット、テコンドー、ボート）

* 下線部の競技が日本から参加

6. 日本選手団の編成

No.	区 分	選 手		選手数 合計	役 員		役員 合計	合計
		男子	女子		男子	女子		
1	陸上競技	15	10	25	6	3	9	34
2	水泳	8	4	12	5	2	7	19
3	卓球	3	3	6	3	2	5	11
4	フットサル	10	0	10	3	1	4	14
5	バスケットボール	0	4	4	0	2	2	6
6	本部役員（団長含む）				4	3	7	7
合 計		36	21	57	21	13	34	91

※団長：斎藤 利之（一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会 会長）

7. 派遣者名簿（最終頁）

8. メダル獲得数（ ）は、前回大会

No.	区 分	金メダル	銀メダル	銅メダル	合計
1	陸上競技	6	6	4	16
2	水泳	0	5	8	13
3	卓球	2	1	3	6
4	フットサル	0	0	0	0
5	バスケットボール	1	0	0	1
ご 合 計		9(7)	12(17)	15(18)	36(42)

9. 渡航スケジュール

[日程 (A) グループ 53名]

日 数 DAYS	月日(曜) DATE	都市名 CITY	現地時間 Local Time	交通機関 Trans Port	摘 要 REMARKS
1	10月8日(火)	東京(成田)発	19:20	JL-771	日本航空
2	10月9日(水)	シドニー着 シドニー発 ブリスベン着	07:10 10:00 10:30	QF-516	カンタス航空
3 / 5	10月10日(木) 10月12日(土)	ブリスベン			クラス分けおよび練習 ※12日開会式
6 / 12	10月13日(日) 10月19日(土)	ブリスベン			大会
13	10月20日(日)	ブリスベン発 メルボルン着	17:10 20:35	QF-635	カンタス航空
14	10月21日(月)	メルボルン発 東京(成田)着	00:35 08:35	JL-774	日本航空

[日程 (B) グループ 38名]

日数 DAYS	月日(曜) DATE	都 市 名 CITY	現地時 間 Local Time	交通機関 Trans Port	摘 要 REMARKS
1	10月9日(水)	東京(成田)発	19:20	JL-771	日本航空
2	10月10日(木)	シドニー着 シドニー発 ブリスベン着	07:10 10:00 10:30	QF-516	カタ航空
3 / 4	10月11日(金) 10月12日(土)	ブリスベン			クヌ分けおよび練習 ※12日開会式
5 / 11	10月13日(日) 10月19日(土)	ブリスベン			大会
12	10月20日(日)	ブリスベン発 メルボルン着	16:10 19:35	QF-631	カタ航空
13	10月21日(月)	メルボルン発 東京(成田)着	00:35 08:35	JL-774	日本航空

<<事前視察>>

1-1. 基本情報

活動名	ブリスベン2019INASグローバルゲームズ競技大会 事前視察	
目的	大会期間中におけるパフォーマンスの最大化に向けた情報の収集	
期日	2019年5月28日(火)～2019年6月1日(土)	
場所	【会場・宿泊先】 IBIS HOTEL (ブリスベン) 【住所】 ADDRESS. 27-35 Turbot St, 4000 Brisbane City QLD , Australia 【電話】 +61732372333	
面会者	<ul style="list-style-type: none">• Robyn Smith (2019 LOC) 他• ブリスベン副市長• 日本総領事館	
人員 (敬称略)	主担当者	斎藤 利之
	帯同者	JPC 長谷部 貴様 JPC 與品 美由紀様 JPC 古谷 駿様 グローバルゲームズ 林 孝雄様

1-2. 日程

月/日 (曜日)	時間	内容
5/28 (火)	19:20 06:10	成田国際発 シドニー空港行き (JL:771) シドニー空港着 +1
5/29 (水)	10:00 11:30 12:30 14:00 14:30 16:15 19:00 21:00	シドニー空港発 ブリスベン空港行き (QF:516) ブリスベン空港着 Hotel check in Lunch 調査 (大会公式ホテル、レストラン、スーパーマーケット etc) Meeting Dinner 終了
5/30 (木)	07:30 09:00 11:00 12:00 13:30 18:30 21:00	朝食 Meeting (LOC) Courtesy visit to the Deputy Mayor of Brisbane Lunch Venue Tour Dinner (LOC) 終了
5/31 (金)	07:30 08:45 09:00 10:00 13:00 15:30 19:10 21:35 24:05	朝食 Checkout HOTEL Tour MTG (IBIS HOTEL) Lunch (Consulate General) 空港へ移動 Free ブリスベン空港発 メルボルン空港行き (QF:637) メルボルン空港着 メルボルン空港発 成田空港行き (JL:774)
6/1 (土)	09:05	成田空港着

1-3. 活動の様子（写真）

		
<p>シドニー空港</p>	<p>ブリスベン空港</p>	<p>メルボルン空港</p>
		
<p>LOC との MTG</p>	<p>副市長との MTG</p>	<p>総領事館</p>
		
<p>宿泊先予定行ル①</p>	<p>宿泊先予定行ル②</p>	<p>宿泊先予定行ル③</p>
		
<p>陸上競技会場</p>	<p>バスケットボール会場</p>	<p>フットサル会場</p>

		
卓球会場	水泳会場	開会式
		
閉会式	ラッピングカー	LOC との夕食
		
スーパー-外観	スーパー-内観	ホテル日航成田 (パンケット)

全体のスケジュールは上記行程表を参考とし、事前視察は大きく以下に分類することが出来た。

- ① LOC との MTG (副市長含む)
- ② 競技会場・練習会場の視察
- ③ 日本代表選手団宿泊予定ホテルの調査
- ④ ホテル周辺の環境調査
- ⑤ 日本⇄プリバンまでの渡航経路の確認 (導線含む)
- ⑥ 日本領事館への表敬訪問

空港到着後、すぐにホテルに向かいホテル周辺の調査を行うなど、到着早々より作業に取り掛かった。派遣者全員、滞在中は体調を崩すものもなく、全ての予定を十分にこなすことが出来た。また、競技会場は既存の施設のため施設そのものに不安は無いが、会場の競技用の運用については(競技準備エリア・招集・ミックスゾーンの設営等)具体的に準備が出来ているところはなかった。一方、副市長をはじめ、政府の協力・支援が非常に強固なものであると感じた。例えば、開会式会場はその市庁舎の目の前で行うなど、政府との協力関係が無けれ

ば実施できないことは容易に想像できた。

次に杉川に関しては候補である 3 つのホルを全て視察する事が出来、その利用方法に関しても十分なイメージを持つ事ができた。それぞれメリットとデメリットがあるが、帰国後、JPC と ANISA で協議することを確認した。

今回の視察で明らかになったことの一つとして、会場の質は前回イカドルに比べると全く心配はないものであった。ただ LOC の準備状況については、ようやく検討を開始した印象であり、今後も継続して準備状況の確認が必要だと感じた。一方、専用車や水上バスにもラッピングを施し、また飲料水にも大会ラベルを貼るなど、メディア戦略や広報活動にもしっかりと戦略ももって臨まれていることが確認できた。最後に、日本領事館の方とも友好的関係を持つことができ、本番時に不測の事態が起こった場合にご協力を頂ける事を約束した。

<<大会本番時>>

*** (以下、ANISA 谷口理事の報告) ***

1. スポーツサミット

ブリスベン 2019 INAS グローバルゲームズ競技大会（10月12日～19日）の開催に先立ち、「International Sport Summit & INAS General Assembly」が開催された。

International Sport Summit（以下、「スポーツサミット」）は、10月10日と11日の二日間に渡って開催され、著名な人物から地元の高校生まで、幅広いジャンルの登壇者が講演した。国際的な部分では、IPC（国際パラリンピック委員会）会長である Andrew Parsons 氏や UNESCO インクルーシブスポーツのプロジェクトマネージャーである Catherine Carty さん、さらに INAS エリジビリティ委員長である Jan Burns MBE さんらの発表があり、スポーツを通じた共生社会の構築に向けた国際機関の動向や、知的障がい者スポーツの研究領域における情報を入手することができた。

●Andrew Parsons 氏（IPC 会長）

3名の登壇者で構成されたセッションにおいて Andrew 氏から5分程度の挨拶があった。パラリンピックが拡大し世界的な認知が得られた現在において、IPC はパラスポーツを通じた多様性やインクルーシブな社会の構築をさらに推進していくことが周知された。IPC は、UNESCO などが提唱する「スポーツを通じた人権モデル」を尊重し歩調を合わせるとしたうえで、それはまさにパラリンピックの起源に回帰することであるとの発言があった。

●Jan Burns MBE さん（INAS エリジビリティ委員長）

パラリンピックにおける INAS 競技の概要について触れ、エリジビリティとクラシフィケーションそれぞれの特徴や関係性について説明があった。課題としてモザイク型ダウン症があり、ダウン症スポーツ大会のエリジビリティや、コーチの声などから現状 III としているが、実質これを排除するリサーチは少なく、今後の課題であることが報告された。講演後に個人的にお聞きした結果、リサーチの現状としては、特に II2 と II3 の導入に際して作業や課題が残っていること示唆した（例えばプロテストに対するプロトコルの確立など）。具体的には II2 のリサーチ（モザイク型ダウン症を除く）についてはデータ解析が終盤に差し掛かっており今後6ヶ月ほどで終了見込みであることと、II3 については専門家によるグループが構築され、II2 のリサーチが終了次第に本格的に始動することを教えてくれた。日本で協力したいリサーチャーがいれば責任者の Jan さんまで知らせるよう周知あった。

2. INAS 総会

INAS General Assembly（以下、「INAS 総会」）では、INAS 加盟国・団体の承認、理事会報告、会計報告、選挙規約の変更、2019-2021 役員選挙、選挙管理委員会の選出などについて

て審議・報告された。INAS 加盟国・団体については、アジアからはバレーボールが新たに加盟した。加盟停止では、加盟料未払いの国の加盟停止や、長期間未払いが続いた国の強制終了が承認された。選挙規約の変更については、混乱を招くという理由から審議取り下げとなり、今後理事会で再考することとなった。INAS 理事選挙については候補者全て（2 名）承認を受け、アジア枠の空席（1 枠）については、今後 INAS アジアの推薦を受けて進めることとなった。総会終了後、INAS 会長をはじめとした役員会による INAS 新ブランディングに関する簡易のプレゼンテーションがあった。ブランディング変更の背景としては、知的障がい者スポーツとの関わりがわかりにくいことや、内部でも発音が統一されていないことなどが挙げられた。新名称やロゴなどの詳細については 19 日の閉会式に公表される予定であることが周知された。

3. INAS アジア総会

INAS アジア総会では、アジア地域とオセアニア地域の合併に関する案や、INAS アジア地域としての INAS 加盟を不継続とする案などについて共有され、次回理事会で審議されることとなった。役員改選では、会長辞任に伴い新会長の承認や、日本からは一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会の斎藤利之会長がスポーツディレクターに、そして谷口広明氏が一般理事に選出され、役員枠 9 名（現状理事 1 枠空席）に対して日本人 2 名が選出される結果となった。他にも、2020 年 1 月の水泳世界選手権大会（香港）の開催の可否について、近日中に決定が下されることが報告され、中止の場合は同時期にタイで開催される見込みであることが周知された。



<写真左から>

Secretary General: Jim Luk (HKG) / **Sport Director: Toshiyuki Saito (JPN)** / Vice
President: Nopodal Jiraboondilok (THA) / President: Patrick Chan (HKG) / Treasurer: Yu Hong
Siu (MAC) / Member at large: Aaron Benjamin (IND) / Member at large: Sharmila
Bhandari (NEP) / **Member at large: Hiro Taniguchi (JPN)**

*** (以下、帯同医師(平野医師)の報告) ***

1. 現地の環境

➤ ホテル; Mercure Hotel Brisbane

部屋は広く清潔であった。冷蔵庫や空調設備も整っていた。浴室はトイレとガラス戸で仕切られており、固定式シャワーのみの部屋とバスタブが付いている部屋があった。

➤ 食事;朝食・夕食はホテルでのビュッフェ形式であった。品数が少なく、栄養バランスに偏りが見られる日もあった。自身でアルファ米やカップ麺等を持参して食べている選手もいた。昼食は、競技会場等にサブウェイのサンドウィッチが用意されていた。

➤ 気候;朝晩は肌寒い日もあったが、日中は晴れの日が多く、過ごしやすい気候であった。

➤ 時差;ブリスベンと日本の時差は1時間で、選手は2,3日で時差には対応できている様であった。

➤ 医療;大会の為に特定された病院はなく、必要時には大会本部へ相談するといった形であった。各競技会場によっては救急車やメディカルスタッフが待機している会場もあった。

2. 対応症例

対応した症例は8例(内科系5例、外科系3例)であった。内科的疾患では発熱、胃不快感、咽頭痛、めまい症等、外科的疾患では擦過傷、湿疹等でいずれも軽微疾患であった。選手1名が原因不明の高熱で現地の病院を受診したが特に大事には至らず、全員無事に帰国。

➤ ドーピング検査;日本選手団は4名の選手が競技会検査(尿検体)を受けた。

3. 総括

<出国前>

まず、携行医薬品の確認・追加購入依頼等の作業を行った。今回は、本部のメディカルスタッフとしては医師1名のみでの帯同で、対応症例も限られてくる為、その点も考慮しながら、薬剤・衛生用品等を揃えた。次に、JPCからの診断書に基づいた選手・コーチ・役員の健康状態の把握と問題のある症例の抽出及び対策、服薬状況の確認作業、カルテの作成を行った。短い準備期間であったが、何とか間に合ったと思う。

<大会期間中>

救護室は設置せず、往診という形で対応した。(水泳に小児腹部外科の医師が1名帯同していた為、同医師とも連携を取りながら急患対応を行う体制を整えた。)遠征期間中は、選手5名、スタッフ3名に対応した。この中で、選手1名が原因不明の高熱で現地の救急病院を受診したが、受診から検査まで2時間以上も待機させられるといった日本の救急医療とは全く異なる対応であった。こういった海外の医療事情を考慮すると、海外遠征の際には予防できること(感染症、熱中症等)はあらかじめ予防するように心がけ、体調の変化を感じたら早め早めに相談してもらうことが大切であると感じた。その他の参加者は大きなトラブルもなく元気に過ごすことができていたと思う。

毎日の健康管理に関しては、競技団体ごとに毎日徹底されており、選手が体温・体重・食事摂取状況等をノートに記載したものを、帯同スタッフがそれぞれチェックするという体制が確立していた。その為、選手もいつも通りのことをいつも通りに行っている印象であった。ただ、知的障がいのために、自分の状態をなかなかうまく伝えることができない選手や症状が出現していても自分で我慢している選手も数名見られた為、帯同スタッフは、選手の普段の様子を把握しておくことや選手と密にコミュニケーションを取り、普段から選手が相談しやすい雰囲気及び環境を作っておくことも大切であると痛感した。

<帰国後>

日本選手団の海外競技大会への帯同は、インドネシア2018アジアパラ競技大会に続いて2回目であったが、本部では医師1人での対応ということで、前回よりもさらに責任感を感じながら現地での活動を行えたことがとても良い経験となった。今後もパラスポーツの発展に貢献できるように頑張っていきたいと思う。

*** (以下、陸上競技の報告) ***

1. 陸上競技 (短距離ブロック)

今回、短距離チームとしては金メダル1個、銀メダル3個という結果であった。男子においては100mと400mに出場し、100mでは、自己新記録を達成し、日本のスプリント力が海外でも通用することを確認することができた。400mでは、ファイナルまで進んだものの勝負にならなかったというのが現状だった。海外選手は体格やレース展開、トップスピード、ラウンドが進むことよっての余力、全てにおいて抜きに出るものがあった。

女子においては、100mと200m、400mに出場し200mと400mで日本新記録を樹立した。どの種目においてもファイナルまで進むことができた。また、200mにおいては海外選手に競り勝ったことは評価できることだと思う。しかし、パラ種目の400mにおいては日本新記録を出した選手がいたものの、海外選手で大幅に記録を向上させている選手も出てきている。今回、日本勢は世界ランキングを上げることができなかったことは残念であった。

海外の大会では、タイムスケジュールの当日変更や過密日程に海外でレースをする経験の少ない選手は少し動揺した部分があった。いかに現地での環境に慣れて自分のペースを崩さずに保っていくかが大切だと感じた。

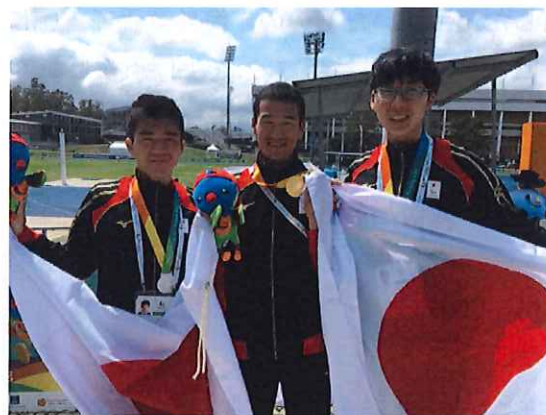


2. 陸上競技 (中長距離ブロック)

今回のブリスベン2019 INASグローバルゲームズ競技大会では、順位よりもパーソナルベストを目標に男子9名、女子4名、計11名の選手で臨んだ。特に、パラ種目の男女1500mについては、パーソナルベストが世界ランキングの向上につながることを強く意識した。

出場6種目 (男子800m、男子1500m、男子10000m、女子1500m、女子3000m、女子5000m)のうち、金4個、銀3個、銅3個のメダルを獲得することができたが、目標のパーソナルベストを出した選手は一人もいなかった。特に、金メダルを獲得できなかった男子800m、男子1500mについては、新しく世界ランキングに名を連ねる選手も出てきており、世界との差を感じる結果となってしまった。更なるスピード強化が課題である。

今大会において好成績につながった一つの要因として、選手一人一人が日々努力している結果であることはもちろんであるが、11月の世界パラ陸上競技選手権大会に向けて、有力選手が出場を控えたことも影響していると考えられる。



3. 陸上競技（跳躍ブロック）

東京オリンピックに向けて、パラ種目である走幅跳はパーソナルベストを達成し世界ランキングの向上を目標とした。三段跳びについては日本新記録（パーソナルベスト）を達成することを目標とした。順位より記録の向上（世界ランキングの向上）を目標に掲げて取り組んだ。

跳躍の選手は6名。5名（男子2名・女子3名）が走幅跳・1名（男子）が三段跳。男子走幅跳で1名が銅メダル・1名が4位、男子三段跳で4位、女子走幅跳で1名が8位・1名が10位・1名が予選惜敗となった。パーソナルベストの達成に至らず、男子走幅跳では世界ランキング5位と8位。女子走幅跳では世界ランキング11位と20位と23位。男子三段跳は世界ランキング2位。

今グローバルゲームズに向けて日本で合宿に取り組んだ直前の順天堂大学競技会では、女子走幅跳で日本新記録が1名（世界ランキング11位相当）・パーソナルベストが1名、男子三段跳でも日本新記録が1名となり、WPA公認大会となるグローバルゲームズに確かな手応えを実感して臨むことができた。男子走幅跳の2名は助走ステップを踏切時の伸展動作に生かすことを意識して、世界ランキングの向上に向けてグローバル大会に臨んだ。予選3本後に別日時での決勝となるため、予選1本目から記録を狙うことや決勝も含め合計9本跳び切る力が求められる大会であった。予選1本目で記録を出すことを強く意識して、足合わせも予選と同等の意識で取り組んだが、良い跳躍につながってもファールとなることや他種目と重なる選手がいたことも影響して最大限のパフォーマンスを発揮することに難しさの残る大会となった。走幅跳の踏切板の前

後に三段跳や II-2 の白い踏切板が何本かあったため、混乱している様子の選手も見られた。

今後の課題として、走幅跳の世界レベルは確実に向上している。日本新記録やパナパシフィック・シーズンベストは最低限求められる力となる。現段階で男子は 6m90 で世界ランキングが 3 位、女子は 5m70 で世界ランキング 3 位と更に厳しい状況であり、世界パラ陸上競技選手権大会でのレベルの向上を考慮すると更に記録の向上が求められる。東京パラリンピック出場に向けて男子は 7m を超えること、女子は 5m40～50 を超えることが必須となる。刻々と変化する世界ランキングを意識した目標の再構築を選手本人及びパナパシフィックと連携して取り組むことが重要となる。日本の知的障害陸上アスリートの悲願であるメダル獲得に向けて、特に男子 2 選手に特化した練習（選択と集中）や「選手強化・支援の共有シート」を活用した取り組みを継続し、7m30・7m15・7m（女子は 5m60・5m30・5m25）とステップアップに向けた連携強化策を展開する必要がある。パナパシフィックが不在の選手の連携強化策の検討・実践は急務である。



4. 陸上競技（投擲ブロック）

競技技術に対する選手の意識向上と選手の日常生活支援を図りながら、上位入賞（メダル獲得）を目標に臨んだ。結果は、男子やり投げ 1 位 55m71cm（日本記録まであと 4cm）であった。今回のグローバルゲームズでは、投擲選手 1 名出場という少々さみしく感じた。しかし、国際大会初という中で堂々たる競技成績を上げられたことは、大きな成果である。競技が日程の後半であることから、選手と練習内容や時間等を細かに話すことでコンディションを整えると同時に、気持ちの準備も整えて試合に臨めたことが結果として得られた。選手の課題としては、助走スピードが速くなることで、最終投擲動作の左のブロックが不十分となり、前方に流れてしまうため、助走スピードを抑え、ブロックを確実に決めての投げることを意識した。本来であれば、スピードに乗った助走から加ステップ、左ブロックからの槍の投げ出しというのが理想である。そのためにも体幹トレーニングによる身体の軸をより強化することが大切となる。それと同時に肩や肘、膝に負担がかかるため、体調管理（体重管理）と練習後の自己ケアがきちんとできると良い。

陸上チーム唯一 1 名の投擲選手であった。体格的にも恵まれているため、外国選手に引けを取らない堂々とした競技内容・結果であった。国際大会初出場といううれしさと緊張と不

安が入り混じっての遠征期間で「結果を残す」ために少しでもリラックスできる状況に配慮した。細かなコミュニケーションを取ることで、練習やコンディショニングが順調に進められ、試合当日競技に臨み、第1位という結果につながられたことは大変良かった。投擲種目は、他種目（走種目や跳躍種目）と比べると競技人口は少なく、今回の男子やり投げは8名の参加（ヨーロッパ諸国6名、日本を含むアジア2名）であった。パラ種目である砲丸投げの出場人数は多いが、その他の投擲種目の出場人数は、10人を満たない状況である。女子に至っては、さらに少ない状況である。また、海外選手の体格と日本で投擲競技をしている選手の体格を比べると大きな差があり、技術というよりパワーによる記録結果に圧倒される。それでも、国内で高い意識レベルで競技に取り組んでいる選手がいるので、強化育成をしていくことが大切であり、国際大会で力を発揮するチャンスがあれば良いと考える。



Day One: Monday 14/10/2019								
Event	Round	Lane Order	Athlete	Results	Place	Wind	Note	
Men	100m	Heat	1 8	小久保寛太	11"30	1	0.2	Q
Men	400m	Heat	1 2	松本隆寛	53"04	3		Q
Men	400m	Heat	3 4	石田正大	52"20	2		Q
Men	Long Jump	Heat	1 11	山口光男	6m58	1	1.0	Q
Men	Long Jump	Heat	2 8	小久保寛太	6m40	2	0.5	Q
Men	1500m	Heat	1 9	十川裕次	4'10"46	2		Q
Men	1500m	Heat	1 11	赤井大樹	4'10"09	1		Q
Men	1500m	Heat	2 11	五味翔太	4'07"49	1		Q
Women	5000m	Final	- 1	蒔田沙弥香	17'41"39	1		Gold
Women	5000m	Final	- 4	阿利美咲	19'47"38	3		Bronze
Women	5000m	Final	- 6	豊島真樹子	18'31"97	2		Silver
Men	10000m	Final	- 11	木村友哉	32'58"90	3		Bronze
Men	10000m	Final	- 13	森田和裕	31'53"04	1		Gold
Men	10000m	Final	- 19	岩田悠希	32'23"67	2		Silver

Day Two: Tuesday 15/10/2019 (Morning Session)								
Event	Round	Lane Order	Athlete	Results	Place	Wind	Note	
Men	400m	SemiFinal	1 7	石田正大	50"89	4		q,SB
Men	400m	SemiFinal	2 9	松本隆寛	53"24	7		
Women	200m	Heat	1 7	川口梨央	27"04	2	-0.5	Q
Women	200m	Heat	2 2	外山愛美	26"62	1	1.4	Q,NNR,PB
Women	200m	Heat	3 3	鈴木裕貴	27"22	1	1.4	Q,SB

Day Two: Tuesday 15/10/2019 (Evening Session)								
Event	Round	Lane Order	Athlete	Results	Place	Wind	Note	
Men	100m	Final	- 5	小久保寛太	11"02	2	1.4	Silver,PB
Women	200m	Final	- 4	川口梨央	26"87	2	0.6	Silver
Women	200m	Final	- 6	鈴木裕貴	27"28	4	0.6	
Women	200m	Final	- 7	外山愛美	26"78	1	0.6	Gold
Men	1500m	Final	- 1	赤井大樹	4'04"70	3		Bronze
Men	1500m	Final	- 5	十川裕次	4'08"86	4		
Men	1500m	Final	- 11	五味翔太	4'20"19	9		
Women	1500m	Final	- 4	阿利美咲	5'37"72	6		
Women	1500m	Final	- 10	蒔田沙弥香	4'53"80	1		Gold
Women	1500m	Final	- 12	山本萌恵子	4'55"14	2		Silver
Men	Long Jump	Final	- 3	山口光男	6m40	4	0.0	
Men	Long Jump	Final	- 5	小久保寛太	6m49	3	1.4	Bronze
Women	400m	Heat	1 4	外山愛美	61"38	1		Q
Women	400m	Heat	4 3	川口梨央	64"48	2		Q
Men	400m	Final	- 3	石田正大	52"57	7		

Day Three: Thursday 17/10/2019 (Morning Session)								
Event	Round	Lane Order	Athlete	Results	Place	Wind	Note	
Women	100m	Heat	1 2	木村真耶加	13"34	1	-4.9	Q
Women	100m	Heat	2 2	鈴木裕貴	DQ			FS
Men	800m	Heat	1 4	小磯夏樹	2'03"21	1		Q
Men	800m	Heat	2 5	米澤諒	1'58"52	1		Q
Men	800m	Heat	3 7	上村勇貴	2'01"83	4		q
Women	400m	Semifinal	1 4	川口梨央	63"51	4		q
Women	400m	Semifinal	2 5	外山愛美	61"12	2		Q
Women	Long Jump	Heat	- 11	酒井園実	4m87	7	-	Q
Women	Long Jump	Heat	- 13	川口梨央	4m69	9	-	Q
Women	Long Jump	Heat	- 17	十代茜	4m40	13	-	

Day Three: Thursday 17/10/2019 (Evening Session)								
Event	Round	Lane Order	Athlete	Results	Place	Wind	Note	
Men	Triple Jump	Final	- 7	長田雅人	12m75	4	1.0	
Women	100m	Final	- 6	木村真耶加	13"30	4	1.8	
Women	Long Jump	Final	- 9	川口梨央	4m57	8	0.0	
Women	Long Jump	Final	- 11	酒井園実	4m35	10	0.0	
Men	Javelin Throw	Final	- 2	齊藤太一	55m71	1		Gold,SB

Day Four: Friday 18/10/2019								
Event	Round	Lane Order	Athlete	Results	Place	Wind	Note	
Women	3000m	Final	- 5	阿利美咲	11'06"30	1		Gold
Women	400m	Final	- 3	川口梨央	62"58	6		
Women	400m	Final	- 7	外山愛美	59"42	2		Silver,NNR,PB
Men	800m	Final	- 2	上村勇貴	2'02"26	6		
Men	800m	Final	- 4	米澤諒	2'00"81	5		
Men	800m	Final	- 6	小磯夏樹	2'02"80	7		

金メダル6 銀メダル6 銅メダル4 日本新記録2 自己ベスト記録3 シーズンベスト記録3

*** (以下、フットルの報告) ***

1. 当初目標と結果

今大会は「優勝」を目標に活動を積み重ねてきた。結果として、今大会は7か国中6位であった。2015年に初めて知的障がい者フットル日本代表が結成され、2019年で2大会目となる。前回は6か国中5位という成績であり、その大会を分析し、活動を重ね、新しいチームとしての再挑戦であった。もちろん、現実として優勝を狙っていたと同時に、目標を「優勝」と公言することで、日常のトレーニング、合宿、取り組むべきことに高い意識を持たせることも狙いとした。予選リーグを突破できなかったという結果はしっかりと受け止め、プレー内容については分析し、次の大会へつなげていく。

2. 結果に対する評価

大会では6試合を行い、1勝5敗であった。優勝を目標にしていたため、試合結果に対しては当然満足できるものではないし、世界との差を感じる結果であった。しかし一つ一つのプレー内容を見ていくと、前大会より確実に進歩しており、そのような意味で日本チームの成長に対する評価は、好印象である。攻撃面では強豪国からもファンを作り出し、得点が取れ、守備面では意図した守備から良い攻撃につながられている部分も多くあった。まだまだ歴史の浅いチームではあるが、一步一步前進していると評価している。

3. 課題、感想

> オ・ザ・ピッチ

攻撃面では、やはりフットル特有の技術を向上していかなければならない。特に足裏でのコントロールは繊細に、意図的に扱うことができないと、主導権を握ることができない。相手のプレスを受ける、狭い局面を突破するといった局面でも、ボールを捨てずにフィニッシュまで運ぶための基本として、足裏でのコントロールは必須になる。

守備面では、トレーニングから「ボールを奪う守備」を意識させたが、試合では相手の技術、フィジカルの前に消極的な場面もあった。それでも奪いに行く姿勢を見せた方が相手も嫌がり、ミスも増えることを認識させると、積極的な姿勢に改善していった。また、守備の連動、連携という部分では、選手がボール周囲の状況を感じ取ってプレーすること、強力なリーダースhipを取れる選手を育てる必要がある。

> オ・ザ・ピッチ

チーム結成当初から比較すれば向上したが、生活面での自立が、まだまだ見ていないところではやらない、一部の選手に頼ってしまう、誰かがやってくれるだろうという部分が見られていた。障害特性上、難しい課題ではあるが、合宿中からオ・ザ・ピッチの取り組みとオ・ザ・ピッチのプレーはつながっていることを伝えてきた。ピッチ内で結果を出すために、ピッチ外の部分でも選手としての自立・自律を求めていく。

4. 各国の参加状況、競技の情勢

▶ 参加国

【オーストラリア】フットサル競技初参加。フットボールプレイヤーは2名程。他選手は普段はラグビーや陸上などに取り組んでいる。監督もラグビー出身。今後のチーム活動は白紙。

【ポーランド】古豪であり、大会常連国。今大会はベテラン選手も多く、体格的にも締まりがない。これまではベスト4、ファイナリスト常連であったが、今大会は準決勝大差で敗退。

【フランス】若い選手も多く、アスリート体型。監督はフランスサッカー協会所属。選手も各スポーツクラブ所属。そのため普段は健常者とともにトレーニング。監督が各地を視察し、大会前に合宿を組み、選手を集める形で大会に参加。

【ポルトガル】フットサル世界大会4連覇。全員10歳程度からフットサルを始める。チームの多くは35~40歳。エース2人は26歳。フットサルをよく知っており、技術、戦術、メンタルともに王者にふさわしい。年齢層が高く、今後どうなっていくか。

【サウジアラビア】サッカー世界大会3連覇。フットサルは初参加。フットサルのルールを知らないほどであったが、さすがのテクニックで試合を追うごとに適応していく。しかし、決勝ではポルトガルの前になす術なし。大差で負ける。これからフットサルを学んでいくのではないか。

【ロシア】サッカーチームの選手スタッフがそのまま参加している。交代は少なく、チームの中心選手がほぼフル出場している。運動量は少ないが、この強力な個の力がある。



参加国は安定しないが、前回6チーム、今回7チーム。ポルトガル、フランス、ポーランドが常連国。

フットサル競技としては、グローバルゲームズ の他に、ヨーロッパ選手権が開催されている。今大会、オーストラリアとはアジア開催もして、ハードルを下げてでも参加国を増やしたいねと共感。南米ではブラジル、アルゼンチンにチームが存在しているが資金面で困難か。日本以外のいずれのチームも、サッカー代表が選手スタッフもそのまま世界大会に参加している様子。

<資料>





予選Aリーグ

 Australia	1	 FINAL	19	 France
<small>FINAL DATE: 30/09/2023 19:00 UTC * LOCATION: ANNA MEARES VELODROME (LUX)</small>				
 France	7	 FINAL	3	 Poland
<small>FINAL DATE: 30/09/2023 19:00 UTC * LOCATION: ANNA MEARES VELODROME (LUX)</small>				
 Poland	21	 FINAL	6	 Australia
<small>FINAL DATE: 30/09/2023 19:00 UTC * LOCATION: ANNA MEARES VELODROME (LUX)</small>				

POS	TEAM	P	W	L	D	F	A	GD	PTS
1	 France	2	2	0	0	26	4	22	6
2	 Poland	2	1	1	0	24	13	11	3
3	 Australia	2	0	2	0	7	40	-33	0

予選Bリーグ

 Portugal	10	 FINAL	1	 Japan
<small>FINAL DATE: 03/10/2023 19:00 UTC * LOCATION: ANNA MEARES VELODROME (LUX)</small>				
 Russia	5	 FINAL	6	 Saudi Arabia
<small>FINAL DATE: 03/10/2023 19:00 UTC * LOCATION: ANNA MEARES VELODROME (LUX)</small>				
 Saudi Arabia	9	 FINAL	9	 Portugal
<small>FINAL DATE: 03/10/2023 19:00 UTC * LOCATION: ANNA MEARES VELODROME (LUX)</small>				
 Japan	3	 FINAL	7	 Russia
<small>FINAL DATE: 03/10/2023 19:00 UTC * LOCATION: ANNA MEARES VELODROME (LUX)</small>				
 Japan	5	 FINAL	14	 Saudi Arabia
<small>FINAL DATE: 03/10/2023 19:00 UTC * LOCATION: ANNA MEARES VELODROME (LUX)</small>				
 Portugal	7	 FINAL	4	 Russia
<small>FINAL DATE: 03/10/2023 19:00 UTC * LOCATION: ANNA MEARES VELODROME (LUX)</small>				

POS	TEAM	P	W	L	D	F	A	GD	PTS
1	 Portugal	3	2	0	1	26	14	12	7
2	 Saudi Arabia	3	2	0	1	29	19	10	7
3	 Russia	3	1	2	0	16	16	0	3
4	 Japan	3	0	3	0	9	31	-22	0





順位決定戦

20 GROUP A 1st GROUP A					
 Australia	5	FINAL	12	Japan	
TIME/DATE: 10:00 AM / WED 14 OCT		LOCATION: ANNA HEARNS VELODROME (MAY)		SELECTED TEAMS MATCH CENTRE	
10th GROUP B 2nd GROUP B					
 Japan	2	FINAL	4	Russia	
TIME/DATE: 10:00 AM / THU 17 OCT		LOCATION: ANNA HEARNS VELODROME (MAY)		SELECTED TEAMS MATCH CENTRE	
30 GROUP B 3rd GROUP A					
 Russia	22	FINAL	1	Australia	
TIME/DATE: 10:00 AM / FRI 18 OCT		LOCATION: ANNA HEARNS VELODROME (MAY)		SELECTED TEAMS MATCH CENTRE	

準決勝

01 1st 6th 2016					
 France	4	FINAL	7	Saudi Arabia	
TIME/DATE: 1:00 PM / THU 17 OCT		LOCATION: ANNA HEARNS VELODROME (MAY)		SELECTED TEAMS MATCH CENTRE	
02 1st 6th 2016					
 Portugal	8	FINAL	3	Poland	
TIME/DATE: 4:00 PM / THU 17 OCT		LOCATION: ANNA HEARNS VELODROME (MAY)		SELECTED TEAMS MATCH CENTRE	

三位決定戦、決勝

30 2ND 1st 4 PLAYOFF 1st VS 2nd					
 France	6	FINAL	3	Poland	
TIME/DATE: 1:00 PM / FRI 18 OCT		LOCATION: ANNA HEARNS VELODROME (MAY)		SELECTED TEAMS MATCH CENTRE	
FINAL VS 1st VS 2nd					
 Saudi Arabia	2	FINAL	10	Portugal	
TIME/DATE: 4:00 PM / FRI 18 OCT		LOCATION: ANNA HEARNS VELODROME (MAY)		SELECTED TEAMS MATCH CENTRE	

<写真>



*** (以下、バスケットボールの報告) ***

1. 当初の目標と結果

<当初の目標> : 優勝

<結果> : 優勝

2. 結果に対する評価

日頃の活動(練習)の成果を存分に発揮することができた。

3. 課題

女子の大会は3×3で行われるので、今後日本国内でどのように3×3を広めていくかが大きな課題と考える。

4. 感想

今大会の日本チームは、他国のどのチームより3×3のための準備をしていたように思う。日本の代表選手たちも、日頃は5人制のバスケットボールをしているので多少の戸惑いはあったと思うが、代表合宿での練習に加え、一般に行われている3×3の大会を見に行ったり、実際に大会に参加したりして、個々が自覚をもって準備をしていた。大会中、選手は自分たちでもよく考え、工夫をして試合に臨んでいたし、スタッフのアドバイスを理解し、意識してプレーできたことが優勝という最高の結果につながった。

今後、他国のチームがしっかりと3×3の準備をしていくことが予想されるので、より一層技術面、メンタル面ともに向上できるような練習を積み重ね、次回の大会に臨みたい。

5. 各国の参加状況

<男子> : ポルトガル、オーストラリア、フランス、ポーランド (4カ国)

<女子> : 日本、フランス、イスラエル、オーストラリア (4カ国5チーム)

※女子はオーストラリアが2チームエントリーしていたため、4カ国5チームで競技が行われた。

当初メキシコも参加予定であったが、大会間際に不参加の表明があった。

6. 競技の情勢

女子においては、それぞれ国内では5人制のバスケットボールが主流であるが、我々の目指す大会が3人制で行われるのであれば、3×3の普及と5人制とは異なる選手の育成や、技術の向上を目指して活動していく必要があると考える。

【資料】

① 参加人数

公開されているスタッフで確認できる登録選手人数は以下の通りである。

<男子>

参加国	ポルトガル	オーストラリア	フランス	ポーランド
選手人数	10	11	10	9

<女子>

参加国	日本	オーストラリア1	オーストラリア2	フランス	イスラエル
選手人数	4	5	5	5	4

②競技結果

<Men' s Game>

Date	Time	Competition	Round Semi Final
13/10/2019	9:00	○AUS 82 vs 74 FRA●	Round 1
13/10/2019	11:00	●POL 44 vs 70 POR○	Round 1
14/10/2019	9:00	○AUS 107 vs 59 POL●	Round 2
14/10/2019	11:00	●FRA 42 vs 55 POR○	Round 2
14/10/2019	15:00	○FRA 68 vs 50 POL●	Round 2
14/10/2019	17:00	○POR 81 vs 60 AUS●	Round 2
15/10/2019	9:00	●FRA 46 vs 59 AUS●	Round 3
15/10/2019	11:00	○POR 60 vs 34 POL●	Round 3
16/10/2019	9:00	●POL 45 vs 65 FRA○	Round 4
16/10/2019	11:00	○AUS 67 vs 66 POR●	Round 4
17/10/2019	9:00	●POL 45 vs 110 AUS○	Round 5
17/10/2019	11:00	○POR 58 vs 37 FRA●	Round 5
18/10/2019	9:00	●POR 45 vs 65 POL○	Semi Final
18/10/2019	11:00	○AUS 86 vs 42 FRA○	Semi Final
19/10/2019	9:00	●POL 48 vs 88 FRA○	3 rd & 4 th Place
19/10/2019	14:00	○POR 94 vs 68 AUS●	Final

<Women' s Game>

Date	Time	Competition	Round Semi Final
13/10/2019	9:00	●ISR 2 vs 21 AUS1○	Round 1
13/10/2019	9:30	●AUS2 8 vs 21 JAP○	Round 1
13/10/2019	10:00	○FRA 21 vs 1 ISR●	Round 1
13/10/2019	10:30	○AUS1 17 vs 3 AUS2●	Round 2
14/10/2019	9:00	○JAP 20 vs 11 FRA●	Round 3
14/10/2019	9:30	○AUS2 21 vs 0 ISR●	Round 3
14/10/2019	10:00	○AUS1 21 vs 5 FRA●	Round 3
14/10/2019	10:30	●ISR 4 vs 21 JAP○	Round 4
15/10/2019	9:00	●FRA 7 vs 14 AUS2○	Round 5
15/10/2019	9:30	●JAP 17 vs 20 AUS1○	Round 5

15/10/2019	10:00	●ISR 5 vs 20 FRA○	Round 5
15/10/2019	10:30	●AUS2 4 vs 21 AUS1○	Round 6
16/10/2019	9:00	○JAP 13 vs 7 AUS2●	Round 7
16/10/2019	9:30	○AUS1 21 vs 9 ISR●	Round 7
16/10/2019	10:00	●FRA 8 vs 11 JAP○	Round 7
16/10/2019	10:30	●ISR 4 vs 21 AUS2○	Round 8
17/10/2019	9:00	●FRA 10 vs 20 AUS1○	Round 9
17/10/2019	9:30	○JAP 22 vs 3 ISR●	Round 9
17/10/2019	10:00	●AUS2 12 vs 14 FRA○	Round 9
17/10/2019	10:30	●AUS1 12 vs 14 JAP○	Round 10
18/10/2019	9:00	○AUS1 16 vs 6 FRA●	Semi Final
18/10/2019	9:30	○JAP 20 vs 6 AUS2●	Semi Final
19/10/2019	12:00	●FRA 7 vs 12 AUS2○	3 rd & 4 th Place
19/10/2019	12:30	●AUS1 13 vs 14 JAP○	Final

【最終順位】

○男子 優勝 ホルガール 準優勝オーストラリア 3位 フランス 4位 ホルガール

○女子 優勝 日本 準優勝 オーストラリア1 3位 オーストラリア2 4位 フランス 5位 イスラエル





*** (以下、水泳の報告) ***

1. 当初目標と結果

メダル獲得目標数は金 7、銀 5、銅 7 (リレーを含む) であった。また、出場する選手 12 名全員がいずれかの種目で入賞することを目標に大会に臨んだ。結果は金 0、銀 5、銅 8 であった。全員がいずれかの種目で決勝進出を果たし、参加 12 名中 11 名がメダルを獲得した。また個人種目では 1 つのアジア新記録を樹立し、リレー種目では 6 つの日本新記録を樹立した。

2. 結果に対する評価

選手選考にあたっては、前回の Global 大会、2017 年に行われた INAS 世界水泳の優勝タイムを基準に、派遣標準記録を設定した。選考基準を上回る記録を保持する選手 12 名 (男子 8 名、女子 4 名) を選考した。かつて、それらの大会の参加選手のレベルは WPS 世界選手権に参加する選手とは明らかな差があった。今回の大会も同様に各国は 9 月に行われた WPS 世界選手権に参加しない選手を派遣するだろうという先入観があり、目標を大きく見誤った。各種目で金メダルを獲得した選手は 9 月に実施された WPS 世界水泳のメダリスト、もしくはファイナリスト達ばかりであり、力の差をまざまざと見せつけられた結果となった。メダルは男女合わせて 21 の金メダルを獲得、地元オーストラリアは 8、アジア地域の香港は 9 の金メダルを獲得している。こういった高いレベルの大会であっても金 0 という結果は非常に悔しい結果である。事前に情報収集を行い、現実的な目標を立てる必要があった。このことを真摯に受け止め、知的水泳の発展を停滞させないように、選手育成に努めていきたい。

3. 課題

何よりベストタイムの更新が非常に少なかったことが一番の反省点である。出発前のコンディションはどうだったか、レースに向けての調整はどうだったか、レース前のウォーミングアップ、食事など様々な要因が考えられる。今回、強化合宿～出発までの約 1 ヶ月の流れの中で選手にとってベストな取り組みはどれかということを探っていかなければいけないと感じた。また、午前の予選、最初の競技はプールに到着してから競技までの時間が限られており、短い時間の中でレースの準備を整えなければならないという普段とは違う難しさがあったと思う。強化合宿等で短時間の準備でレースに臨む練習も必要だと感じた。今大会は今までの Global 大会、INAS 世界水泳とは全く違った競技レベルの大会になった。各種目上位選手の記録を見ると、WPS の大会により近付いたといい。こういった高いレベルで戦うには、選手層の厚さが必要になってくる。現在日本では、WPS に参加する選手と INAS に参加する選手では記録に差が開いていく傾向にあるが、この差を縮めるべく強化を進めていく必要があると感じている。その中でも平泳ぎや自由形以外の中距離の種目では手応えを感じたので、より一層の強化を進めていきたい。今回、男子の背泳ぎ、女子全般で選手層が薄かった。女子の強化は長い間の課題となっている。また、他国の選手の年齢層を見てみると、若い選手が多く参加している。日本も若手選手の育成が急務である。本腰を入れて取り組んでいく

体制を整えなければならぬと感じた。次世代選手が経験を重ねられるように、INAS のエントリーを早い段階から進めていくことも必要だと思う。

また、大会期間中に体調を崩し、競技を棄権しなければならなかった選手が出たことも反省点の一つである。環境の変化に順応しづらいという点を踏まえて、より踏み込んだアドバイスが必要ではなかったかと考えている。選手の体調を考慮して、迅速な対応で部屋の配慮をしてくださった JPC の方々には心から感謝している。

4. 感想

公式練習期間、大会期間ともに、ホテル～会場間の移動のバスが限られており、競技場まで時間がかかる為、毎日、終日プールで過ごすこととなった。早朝より夜遅くまで、ホテルで食事の時間も十分に取れない日があったにも関わらず、最後までパフォーマンスを維持し、戦い抜いた選手たちは本当に素晴らしかった。林田キャプテンを中心に、強化合宿からチームとしてもまとまりがよく、お互いに励まし合い、称え合い、声を掛け合うことの多いチームだった。大会期間中によりチームとして高まったと思う。このことは、個人種目での記録が思わしくなかった選手達が別種目で目を見張るような素晴らしい泳ぎを見せ、次々と記録を更新した成績につながっていると思う。

競技においては、動線の良い会場であった。ウォーミングアップのための屋外プールの水温も管理されており、使いやすかった。スタッフが少なかった為、各選手に大まかなスケジュールの管理を任せることとした。過密なスケジュールの中、自分たちで必要な情報を收拾、判断し、時刻を逆算し行動できた選手が多く、頼もしいと感じた。海外での大会の経験がある選手が多く、当日の朝発表されるスタートリストにも慌てることなく、自分のルーティーンで準備に取りかかっていた。

今回のスケジュールを選手達が乗り切れた要因の一つにトレーナーの役割が非常に大きい。サブプール脇のテントにトレーナールームを確保し、ベッドを設置してレース前、レース間の選手のコンディショニング、メンテナンスを行った。身体面、精神面の違和感、疲労感をすぐに相談でき、的確なアドバイスをしてくれるトレーナーは選手にとってもコーチにとっても必須である。大変な役割を担ってくれたことに本当に感謝している。また、競技面、生活面を問わず、あらゆる場面で細やかにチームを支えてくださった通訳の出村さん、体調を崩した選手を手厚く看病してくださった杉原 Dr. にもこの場を借りて感謝の意を伝えたい。本当にありがとうございました。

出発前には 2 名の選手がクラス分けを行う予定だったが、出発直前になり、エントリーの不備でクラス分けが受けられないという連絡を受けた。エントリーの段階で今回派遣されたスタッフが気づかなかったことが原因である。今後は連盟内で情報の共有に努めていきたい。

5. 競技の情勢

競技は予定されていたものから多少変更されたものはあったが、タイムスケジュール通りに運営された。招集時刻もタイムが置かれきちんと管理されていた。スタートリストは前日の夜にメールでチーム代表者に配信され、また当日朝に SID にプリントされたものが置かれていた。午後の決勝のスタートリストは、予選が全て終わった後、午後のウォーミングアップが始まる前にメールで配信され、SID に

て配布された。リサルに関して大会期間中は掲示のみの対応であった。表彰式の国歌が時間の都合なのかなり短縮されていた。総じて引き締まったスムーズな大会運営だったと感じた。

II2はこの大会にすっかり馴染んでいると感じた。日本ではまだ十分な取り組みがなされているとは言えないが、今後はさらにこのクラスが充実してくるものと予想される。日本としてどう取り組んでいくかをすでに取り組んでいる国々から学び、できるだけ早く考えていく必要があるだろう。

○今大会の新記録について

WPS 世界新 5、WPS 地域新 14 (ヨーロッパ (2)、アメリカ (2)、アジア (7)、オセアニア (7))

Virtus 世界新 18、Virtus 地域新 110 (ヨーロッパ (12)、アメリカ (22)、アジア (39)、オセアニア (37))

VirtusII2 世界新 10

大会新 39

6. 各国の参加状況およびまとめ

参加国、参加者数を大会運営本部に質問したが回答がなかったので正確なことは不明である。今回、この大会に参加するにあたり、JPG、ANISA の皆様、数多くの関係者の方々に支えていただいたこと、感謝申し上げます。他競技の活躍を目の当たりにし、これまで以上にスタッフとしてのスキルを高めていかなければならないと痛感した大会でした。連盟スタッフが個々にレベルアップを図り、また、次回の大会で選手が活躍できるよう精進していきたいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。



INAS Global Games BRISBANE 2019 競技結果一覧表

Event No.	1日目							2日目														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
Event	50mFr	50mFr	200mIM	200mIM	100mBa	100mBa	800mFr	1800mFr	4x50mFr	4x50mFr	400mFr	100mBr	100mBr	400mIM	400mIM	50mBa	50mBa	4x100mFr	4x100mFr	4x100mFr	4x100mFr	
Gender	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
加賀敏夫											○銀											
鴨弘之	○9							●											●			
坂倉祥孝								●		○銅									●			
高柳孝貴								●														
津川拓也			○8									○4										
林田泰河			○9								○銅											
宮崎哲			○6																		●	
村上謙也								●													●	
井上賢美					○7																	
水戸明美																						
福井智彦						○6	○7										○4NR アジア新					
渡邊理美														○9								
JAPAN										○4NR											○銅NR	

- 金 0
- 銀 5
- 銅 8
- 入賞 23
- 日本新 7
- アジア新 1

Event No.	3日目							4日目							5日目										
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
Event	200mFr	200mFr	200mBa	200mBa	50mFly	50mFly	4x50mFr	4x50mFr	100mFr	200mFr	200mFr	100mBr	100mBr	100mFr	100mFr	1500mFr	1500mFr	50mBa	50mBa	200mFly	200mFly	50mBr	50mBr	メダル 獲得数	
Gender	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	メダル 獲得数
加賀敏夫							●			○銅												○銅		10 銀1 銅2 3	
鴨弘之					○10								○11											6 銅2 2	
坂倉祥孝	○10																▲高校							5 銅2 2	
高柳孝貴							●								●					○4				5	
津川拓也							●								●									10 銀1 銅1 2	
林田泰河										○銀					●							○7		9 銀1 銅2 3	
宮崎哲	○7						●						○7		●						○銅			15 銅3 3	
村上謙也	○4						●		○9				○8								○風			13 銀1 銅2 3	
井上賢美						○11		●						○11										8 銀1 1	
水戸明美						○5		●						○4								○銅		8 銀1 銅1 2	
福井智彦						○7		●					○6											8 銀1 1	
渡邊理美													○7											7 銀1 1	
JAPAN								○4NR	○5NR					○4									○銅NR	9 銅NR	

*** (以下、卓球の報告) ***

卓球チーム・日本選手団名簿

連盟コーチ：長田拓也・柏木眞子

母体コーチ：石川一則・加藤智也・岸本昇子

男子選手：竹守彪・加藤耕也・高橋利也

女子選手：古川佳奈美・伊藤慎紀・美遠さゆり

《スケジュール》

10月9日 空港集合～ブリスベンに向け出発

10日 シドニー経由ブリスベン到着～アクレ取得・ホテル近郊散策～監督会議

11日 午前ホテル周辺散策～午後初日練習（13時～17時）

12日 練習二日目（8時～13時）～開会式出席

13日 練習三日目（8時～16時）～テクニカルミーティング

14日 試合初日（男女シングルス予選・決勝トーナメント2回戦まで）

15日 試合二日目（男女シングルス準々決勝～決勝・男女団体予選）

16日 試合三日目（男女団体決勝トーナメント）～竹守選手ドーピング検査

17日 試合四日目（男女ダブルス予選～決勝）

18日 試合五日目（男女ダブルス予選～決勝）

19日 閉会式出席

20日 ホテル周辺散策～空港へ

21日 ホテル経由成田着～解散

《結果》

別紙参照

《入賞者》

金メダル：男子団体（加藤・竹守・高橋）、男子ダブルス（加藤・竹守）

銀メダル：女子ダブルス（古川・美遠）

銅メダル：男子個人（竹守）、女子団体（古川・美遠・伊藤）、混合ダブルス（竹守・美遠）

《考察》

今回知的障がい者卓球連盟からは男女各3名の選手と5名のスタッフの計11人で大会に参加した。本大会は本会より国際卓球連盟のクレジットポイント（20ポイント）付与大会となったため、各国の参加選手も前回大会より上位者が多く、参加人数も普段の国際大会と比べ倍近い人数となっていた。当全日本チームもエントリーの段階で来年の2020東京オリンピック出場可能性が一番近い選手たちを代表選手団として選出している。

卓球チームのスケジュールに関しては前述の通りであるが、普段の国際大会は試合の前日に現地入りし、調整をしたうえで当日を迎えるというケースがほとんどであるが、今回は試合当日を迎えるまでスケジュール的にかなり余裕があったため、十分な調整を行うことができた。他国のケースを見ると、時間を持て余している国や、練習時間の一部のみでしか練習しないといった光景が見られたが、対して日本選手団は練習可能時間は基本体育館にて調整を行っており、非常に有意義な準備ができたと感じられる。

練習二日目（開会式の日）に発熱した選手が1名いたが、開会式後に速やかにホテルに帰着させ、十分な睡眠と食事をとらせた結果翌日には回復した。普段のスケジュールより遠征が長期にわたることなどへの不安から、2日間ほど十分に食事が取れず、睡眠も満足に取れなかったというような事情があったようである。

試合日程が始まってからは選手たちも完全に気持ちが入り、体調不良や故障を起こす者がいなかったことは幸いであった。日程として男女シングルの予選から始まり、日本選手団は予選の中でも上位の位置にいたため、試合のスケジュールが重なることが多かったが、母体コーチの方々のご協力の御蔭様で、連携がうまくいき、全員が取りこぼしなく予選を通過することができた。

決勝トーナメントからは世界ランキング上位陣がそろい踏みという形となり混戦となったが、全選手最低限の結果を残すことができたと思う。

続いて団体戦は男女ともに1チームずつの参加となった。今回の日本選手団はチームワークもよくしっかりと連携して大会に臨むことができた。女子チームはあと一つが勝ちきれず悔しい銅メダルとなったが、準々決勝のインドネシア戦ではランキング下位ながらも自力のある選手との接戦をものにし、価値ある勝利を収めた（その後インドネシアの選手はクラス分けが通らず失格となっている）。男子は格上選手があまた参加する中で、地元オーストラリアとの接戦を制し見事な金メダル獲得となった。

また、ダブル種目においても、男子ダブルスはコンビネーションが良く金メダル、女子ダブルスは接戦をものにして銀メダル、混合ダブルスはにわかコンビでの銅メダルと各種目でメダルを獲得した事など、今大会の総合結果は目標としていたメダル獲得数をクリアできた点からも、今後の2020東京オリンピックに向けての大きな収穫であった。

以下からは各選手の考察を述べたいと思う。

《竹守彪》

シングルの予選でランキング下位の選手に先手を取られる試合があったが、石川コーチの助言により立て直し、逆転勝利を収めた。それ以降はシングル、団体戦を通じて一番安定した戦いぶりを見せた。事実シングルでは男女通じて唯一のメダル獲得となり、実力をコンスタントに発揮する能力の高さを見せつけてくれた。

《加藤耕也》

シングルス・団体ともに敗戦は格上のみという結果となった。

その敗戦も世界ランキングトップ 5 に引けを取らない内容であり、実力の高さと近年のレベルアップを証明する結果であったと感じる。特にシングルス優勝のボン選手との団体戦での試合は 2-3 での惜敗となり、パリンピックでのメダル獲得も期待できる内容であったと感じる。

《高橋利也》

加藤同様敗戦は格上の選手という形であった。彼の戦型はパラの卓球界の中でも珍しいため、時より世界ランキングトップ 5 の選手にも王手をかけることがあるのだが、勝ちきれないという結果が続いている。

今大会も世界ランキング 2 位のペア選手に 2-1 と先行するも、悔しい挽回負けとなった。一つでもものにして、自身をつかんでほしいと感じる。

《古川佳奈美》

本大会はよく調整できており、比較的安定した力を発揮できていた。これまで敗戦していた格下 2 名にしっかりと勝利することができたというのは彼女にとっても自身につながると思う。今回シングルスで敗戦したウォン選手は後に世界ランキング 4 位獲得したが当時は新人であったため非常に悔しいと感じていたようだ。本大会の悔しさをバネに残りの国際大会に臨んでほしいと思う。

《美遠さゆり》

精神的に少し沈んでいたが、試合が始まってからは気迫のこもった試合を演じてくれた。シングルスでは当時世界ランキング 4 位だったコチガ選手に 2-2 の 10-6 と王手をかけるところまで行ったが、悔しい挽回負けを喫した。

技術レベルは上がってきており、本大会も随所に良いプレーを見せたが、あとは精神的な部分が安定してくることを期待する。

《伊藤楨紀》

本大会は予選から息が詰まるような接戦が続いたが、何とか世界ランキング 1 の選手のところまで勝ち残ることができた。

本人の状態があまり仕上がっていなかったようで、団体戦で格下に 2 試合敗戦を喫してしまったことは私の努力不足であると感じた。

まだ東京パラに希望が残っているので、残りの数少ないチャンスをものにしていただきたいと思います。

この INAS グローバルゲームスは卓球だけでなく他の競技団体とともに日本代表選手団としての参加ということで、他の国際大会よりも代表としての自覚や意識が高い大会となり、選

手たちもより一層気を引き締めて参加しているように感じられた。

残り 3 月まで期間は短いですが、まだ試合はたくさん残っている。本大会での経験をしっかりと今後の試合につなげ、一人でも多くパラリンピックへ出場する選手が出ることを期待する。

《終わりに》

本遠征参加に伴い、ご尽力賜りました日本障がい者スポーツ協会の皆様、全日本知的障がい者スポーツ協会の皆様はじめ関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

本遠征の実績と経験を来年度のpara大会はもちろんのこと、各種国際大会に結び付けていけるよう今後も活動を続けてまいりたいと思います。

今度ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

総括

今回の大会を振り返り大きく2つの事について述べたいと思う。

1つ目は、INASが大きな危機感と使命感を以て、変わろうとしている点である。その一つが、今回の閉会式において長らく親しまれてきた「INAS」という名称から、「Virtus」という名称へ「V」が変更された事だ。この事は、実は出発前から多少知らされてはいたが、現実のものとなり改めて驚いた。「V」への変更は、一義的にはINASというネーミング自体、知的障がい者スポーツの国際連盟を表す言葉として、“分かりづらい”という理由があるようだが、ただ今回のネーミングもそれらを払しょくするだけの説得力はないと個人的には感じている。しかしながら、何かを変えたい、変えなくては、という“やる気”現れでもあったように思える。今後、ワールドワイドなスポーツの確保、各国や各競技団体の積極的な大会運営など大きなチャンスでもあり、その可能性を大いに感じたところだ。

次に、今大会は、パラ3競技（陸上競技、水泳、卓球）に於かれては、国際（IF）基準に則った（ポイントや記録が正式に認められる）公式な大会であった事も大きな出来事ではないかと思われる。その為か、上記各競技団体の報告にもあるように、非常に高いレベルでのレースになった事は、各競技団体の選手・スタッフ全員が口を揃えて述べている。要するに、グローバル大会のレベルが上がっているという事が証明されたのである。往々にして、記録は悪くない、でも、勝てないというのが今回の大会だったのではないだろうか。今後、益々注目されていくこの大会を国内の選考基準を含め、様々検討する必要性を示唆した大会でもあった。

最後に、「はじめに」でも触れたが、「ダライ症候群（II2）」と「自閉症候群（II3）」の2つの新しいカテゴリも実施するなどチャレンジ精神に溢れた大会であった事である。初めて参加した選手も大いにその力を発揮できたのではないかと思う。その様な中、参加している選手を近くで拝見したが、スプリントのある水泳選手は、日本では見たことがない、筋肉隆々のダライ選手だったなど、そのポテンシャルは大きく感じられた。II2に関しては、恐らくスプリントリレーを意識しての事だと推測するが、選手にとってみれば選択肢が増える事は単純に嬉しいはずだ。しかしながら、我が国においては、まだまだその準備が整えられていないのが現状である。一方、ANiSAとしては、昨年度からANiSAの加盟団体に、公益財団法人日本ダライ症協会様へ加盟して頂き、早々にその準備を少しずつ整えている状態ではあるが、具体的にどこで、だれが、どのようにいったい万整備に加え、医科学的な責任問題をどのように解決するかという問題も横たわっている。今後、それらを地道に関係者と協議しながら、次の大会（2023年）には、日本としても何とか派遣に漕ぎ着けたいところである。

2つ目として、第1回目の大会から連続して参加していた、男子バスケボールチームが、今回、派遣を断念した事である。この事は、今後も容易に解決できない内容であるところに、問題の困難さを抱えている。つまり、派遣費捻出の問題である。これまでも、グローバル大会への派遣は、基本的に「JPCからの強化費と各競技団体の自己財源+参加選手の自己負担」で賄われてきた。そのため、派遣費の捻出に各競技団体においても様々な手法で資金確保に翻弄されていたと報告を受けている。例えば、Tシャツを売って資金を集める、学校の有志

から支援を募る等、枚挙に暇がない。しかし、前回大会も今回大会も一人当たり約40~50万円の費用が掛かる中、簡単にお金を集められるものではない。特に団体競技となればその負担は相当なものになる。また、強化費に関しても、年間の他事業との絡みがあることから、全てをこのグローバル大会に支出する事も出来ない。故に、選手にも大きな負担を強いられる事になっているのが現実である。結果的に選手千選考においても、「実力+相応の自己負担の可否」で決定せざるを得ないのが現状である。また強化費は、年単位における経費という性質から、次回大会（4年後）に合わせて、お金をプールする事も出来ない。そのような事情もあり、各競技団体に於かれては、頭を悩ます事案であることは間違いなく、今の所、根本的な解決策は見当たらない。また、追い打ちを掛けるように、2020年の東京オリンピック終了後の2021年度の予算配分（予算の削減等が予測される）なども大きな関心事でもある。そのためにも、ANISAの果たす役目は、大きいと痛切に感じている。

今後の課題としては、世界で戦えるよう、アジアからの競技スポーツの振興と底辺の拡大を図り、優秀な人材の発掘と長期的な展望に立った、強化支援体制の確立が急務であり、同時にそれらを支える人材の確保が重要であると考えている。

最後に、そのような中、金メダル獲得数が、過去最高の9個を獲得し、合計で36個（銀メダル12個、銅メダル15個）を獲得出来たのは、選手はもとより監督・コーチ・トレーナー・医師等多くの方々の支えがあつての事だと心より感謝申し上げます。

（文責）齋藤利之